

# 5月20日明石吟行のしおり

## ※タイムテーブル

- 9:30 JR明石駅1階改札口前集合、徒歩（約10分）で移動します。
- 9:45 明石港到着（播但汽船のりば）更に歩いて漁港まで移動します。約10分
- 10:00 漁港に到着、小一時間吟行します。
- 10:50 漁港糶り場へ移動、徒歩約10分
- 11:10 糶場到着、糶りを見学（あっという間に終わります）
- 11:30 句会場へ移動、徒歩約5分（わかばさんが案内してくれます）
- ↓ 蛸飯弁当を食べます。（お茶は各自持参）
- 13:30 投句締め切り（投句選句とも7句）
- 16:00 終了、解散、徒歩約15分（時間のある方は魚の棚経由がおすすめです）
- 16:20 JR明石駅（新快速 16:35 16:50 17:05 17:20 17:35 17:50）

## ※吟行のポイント

- ・ 漁港までの道中に魚の棚の横を通ります。興味のある方はここで吟行されても構いません。でも、この時期は季語が少ないので詠み難いと思います。
- ・ 播但汽船乗り場の向かい側路地の角に古びた一膳飯屋があります。昔は数軒あって漁師さんたちが利用していて賑わっていましたが、いまは1軒だけです。
- ・ 明石港からは西側沿いに漁師町を辿りながら一文字波止まで10分ほど歩きます。**脚力に自信のない方は、タクシー乗り合いで明石駅から漁港まで直行されるといいです。ワンメーターで行くと思います。「明石港旧灯台」の近くまで…と言われたらいいです。**
- ・ 漁港からは明石海峡、播磨灘が一望できます。海峡大橋も目の当たりです。船舶の出入りする突堤の両サイドに大きな灯台がり、赤灯台、白灯台と呼ばれています。
- ・ 漁港手前に旧灯台があります。正式には、旧波門崎燈籠堂（きゅうはとさきとうろうどう）と呼ばれ、藩政時代からある明石港のランドマークとして親しまれています。1963年（昭和38年）に航路標識としての機能は廃止になったが、2014年（平成26年）に国の登録有形文化財に登録されました。
- ・ 漁港には釣り人が沢山います。雑魚のおこぼれを頂戴するために野良猫も屯しています。小型の漁師船も停泊しており運が良ければ出入りする様子や出漁準備中の漁師さんにも出会えるでしょう。明石独特の底引き網の船が多く、船尾に櫓を組んで編みを巻き上げています。通称タコバッチと呼ばれる独特の漁船です。
- ・ 明石海峡は普段は殆ど波立たず穏やかですが、この時期は風があるので卯波が見えてくれるといい句材になります。明石海峡は潮流が速いので潮の流れに対して逆方向の風が吹くと鋭い三角波が立ちます。通称、明石の門波（となみ）と呼ばれて古歌にも詠まれています。目を凝らしてみると潮流の境目にはっきりと色の違いのあるのを見つけることができます。これが潮目です。
- ・ 少し足場が悪いですが勇気を出して一文字波止へ登ると景色が一変します。真正面に見えるのは淡路島（国産み島）の西海岸側です。山の中腹に風力発電の大風車がたくさん見えると思います。

- ・明石港（乗り場）から漁港までの道筋には魚網が干されていたり、網をつくるのを専門にしている漁具のお店などもあります。そうした生活風景も句材になるでしょう。
- ・糺は一応11:00からということになっていますが、準備とかがあるので実際の競りが始まるのは、その日によって変わります。通常は11:20くらいから始まり、20分ほどであっという間に終わります。ここで即席に句を詠むのは結構難しく、想を練りながら見ていると気がついたら終わっている…ということになりかねません。作句のことは忘れてしっかりと目に焼き付けておくことがポイントです。写真を撮っておいてもいいですね。
- ・糺り師の所作、会衆の駆け引き、糺られたあとのト口箱などなんでも興味深いです。男勝りのおばさんや学習兼見習いの少年たちもいます。激しい潮流で育った明石のタコは、立って歩くと言われるほどで油断しているとト口箱から逃げ出そうとします。大口を開けて叫ぶような鰻の表情も面白いです。句にまとまらなくてもいいので何でもメモしておきましょう。

